

新型コロナウイルス感染予防策 レベル1 (R3.4.7)

新型コロナウイルスの感染防止を最優先に考え、次のことに留意し学校生活を送る。また、状況は適宜変化するため、情報を収集し感染予防に努める。

特に注意が促されていることは次の3つ

「人と人との距離」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」

1 体調不良者への対応

(1) 体調不良の症状

発熱、倦怠感、咳が出る、その他体調不良と判断できる症状

(2) 体調不良者の措置

上記、体調不良の症状がある場合、保護者が署名、捺印した「出席停止届」を提出し、校長が認めた場合、その期間を出席停止扱いとする。

同居家族に体調不良の症状がある場合、その症状や状況に応じて出席停止を検討する場合がある。

2 登校生徒への対応

(1) 登校時の健康観察

①登校前（当日の朝）、自宅で体温測定する。

→ 各教室で準備した名票に体温を記入（生徒） → 名票を確認（担任）

→ 保健室へ提出（保健委員）

(2) 登校後、発熱など体調不良が認められた場合の対応

①原則、発熱している生徒は早退させる。

②交通手段は保護者の送迎が望ましいが、難しい場合には公共の交通機関を利用する。

(3) 遅刻者への対応

①遅刻理由および体温を確認する。（体調不良なのかどうか）

3 授業の対応について

(1) 換気と消毒

①外側と廊下側の窓とドアを対角線上に15cm程度開放する。

②休み時間は、窓・ドアを大きく開けて空気の入替えをする。

③2校時と4校時終了時に消毒を実施する。

(2) 授業における留意事項

《 レベル1地域 》

下記の感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動（★）については、換気、身体的距離の確保、手洗いなどの感染症対策を行ったうえで実施することを検討する。その際にはレベル2地域における留意事項も可能な範囲で参照する。

《 レベル2・3の地域 》

①各教科に共通する活動

・生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク（★）

・近距離で一斉に大きな声で話す活動（★）

・器具、用具を共用で使用する場合は使用前後に手洗いや消毒を行う

②ワークショップは避ける（★）

③教科ごとの具体的な注意点、回避すべき場面

「理科」

- ・生徒同士が近距離で活動する実験や観察

「音楽」

- ・室内で生徒が近距離で行う合唱（★）
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏（★）

「美術」

- ・生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞活動

「保健体育」

- ・密集する運動（★）
- ・近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動（★）
- ・実施場所によっては換気する

「情報」

- ・共有で使用するキーボードの消毒を毎時間実施

「家庭」

- ・生徒同士が近距離で活動する調理実習（★）

「その他」

発声を伴う授業や生徒同士が密接する内容は避ける

4 部活動の対応

可能な限り感染症対策を行ったうえで通常の活動を行う。また、感染が拡大傾向にある地域への遠征は控える。

5 校舎内の消毒

(1) 消毒（次亜塩素酸水系の消毒液を使用）

- ・共通で使用するところ（ドアノブ・スイッチ、教卓等）の消毒（ふき取り）
- ・2時間目と4時間目終了後の休み時間と放課後の計3回実施
- ・トイレ、階段手すりは業者が実施

6 手指用アルコール消毒薬の配置（養護教諭）

(1) 設置場所

本校舎：昇降口①・正面玄関①・2階職員室前①・体育館入口①・保健室①
第二校舎：昇降口①・1階流し台①・2階流し台①

7 昼食について

(1) 3密を防ぐ

- ・机を向かい合わせにしないで全員前を向いて食べる
- ・会話を控え飛沫を飛ばさない

(2) 衛生管理

- ・食事前の手洗いの徹底
- ・机上の衛生管理を各自行う
- ・業者による弁当、パンを購入する際は生徒間の距離に気を付ける

8 マスク着用

全員マスクを着用する。自らが感染しているかもしれないという前提に立ち、他者への感染をできる限り防ぐ措置をとる